

ワークシートの評価に関するアンケート 結果報告

2011年8月に、兵庫県下の高等学校家庭科教員を対象に行った住生活分野のワークシートの評価に関するアンケートにご協力いただきましたこと、深く御礼申し上げます。アンケート結果につきましては修士論文としてまとめさせていただきました。その要旨をここにまとめましたので、ご覧いただければ幸いです。また、先生方からいただいた評価はワークシートに反映させ、別ファイルにて紹介させていただきます。そちらも、よろしければご覧ください。

平成24年2月吉日
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科
浅野三奈 (院 生)
永田智子 (准教授)

<アンケートの概要>

調査対象…兵庫県下県立・市立・私立高等学校家庭科教員 (216校)

調査時期…2011年8月下旬

方法…質問紙郵送法

回収枚数 (回収率) …72枚 (33.5%)

※要旨ではワークシートの評価に関する結果のみをまとめています。

1、アンケート結果

(1) 学習構成の評価について

「部屋」「家」「地域」という学習構成は教科書にはほとんど採用されていないことから、教員が使いにくいという評価を受けることが懸念された。しかし、生徒の学習空間を整理し、身近な部分から始めることは、住生活分野において有効であることが分かった (図1)。

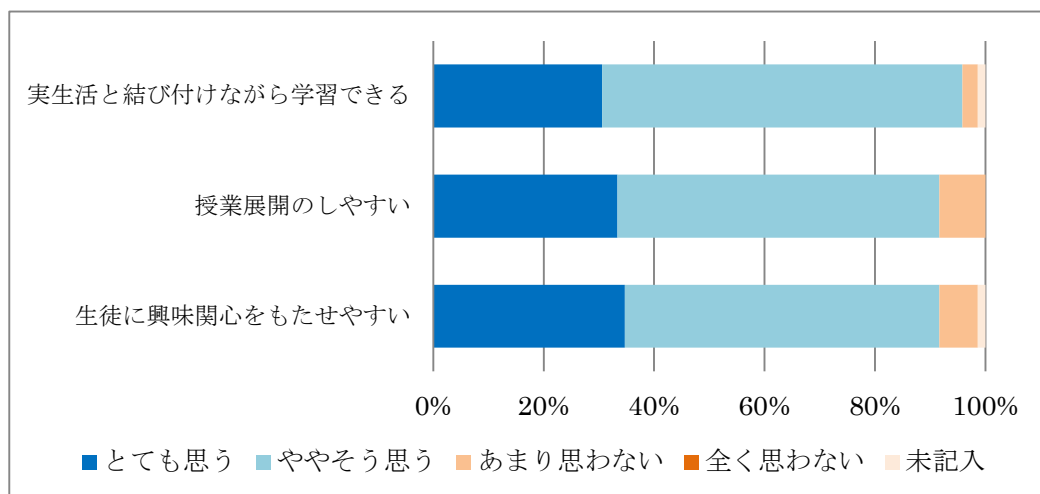


図1 学習構成に関する評価結果 (n=72)

(2) 学習展開の評価について

「Ⅰ発見」や「Ⅲ活用」という展開を入れることで、「ただ、だらだらと知識を入れていく（自由記述より）」ということが避けられ、生徒が主体となる場面を設けることができる。このことがあり、「生徒が主体的に学習できる」の項目が評価されたと考える（図2）。

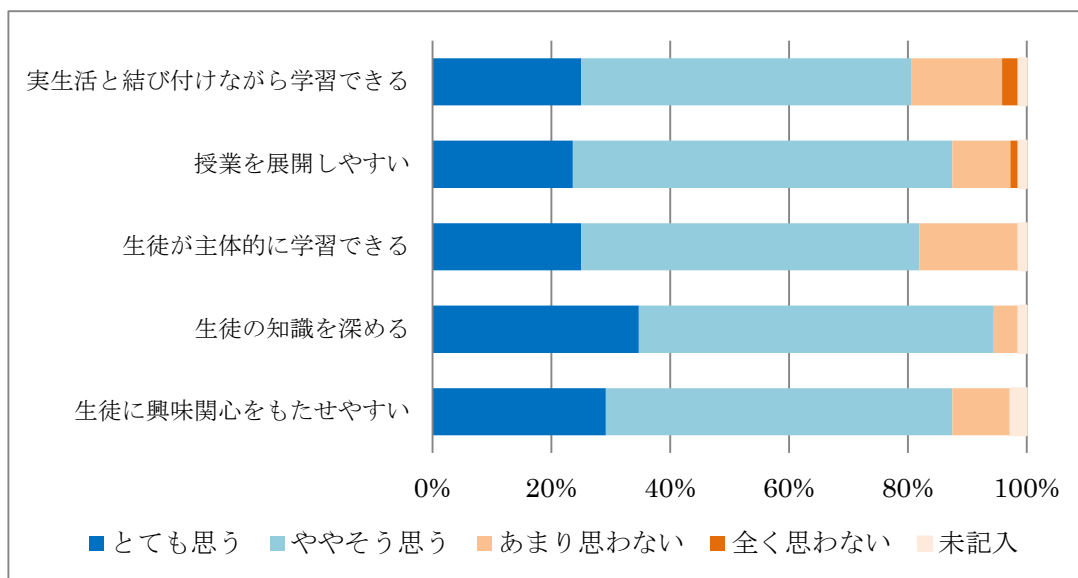


図2 学習展開に関する評価結果 (n=72)

(3) 学習内容の評価について

授業時間数や生徒の実態に左右されやすい項目であったため、基本的には厳しい評価となった。しかし、学校ごとに特色がさまざまである中、どの項目においても半数以上の教員からプラス評価を得ることができ、ワークシートの有効性をうかがうことができた（図3）。

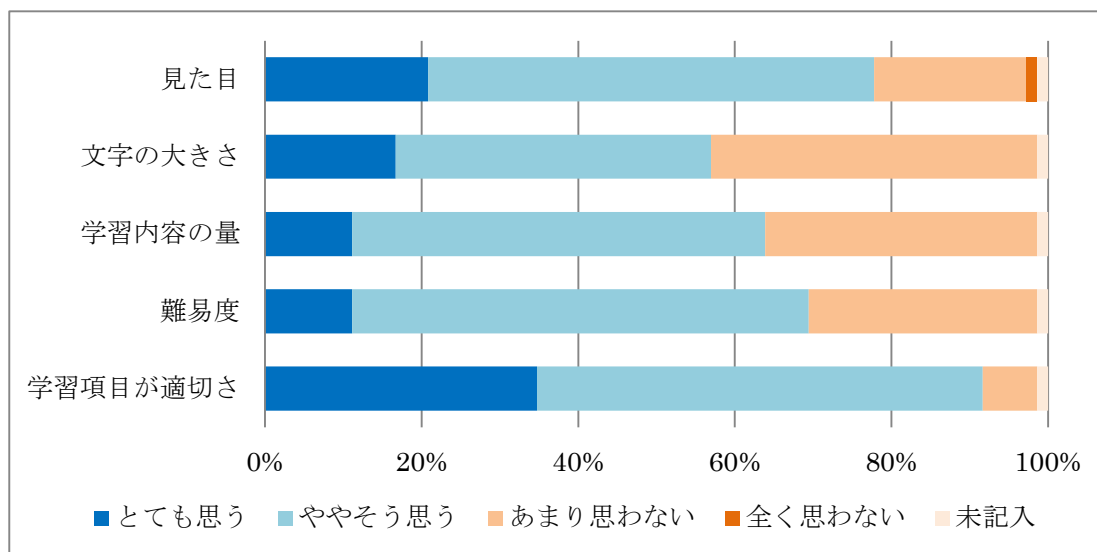


図3 学習内容に関する評価結果 (n=72)

(4) 鳥瞰図の評価について

「生徒に興味関心を持たせられるか」という項目をはじめプラス評価が多く、住生活分野の学習において鳥瞰図は有効であることが分かった。ただ、「問題点」の設置個所が多いや重複している箇所があるなどという意見があり、他の項目に比べるとマイナス意見がやや多かった(図4)。

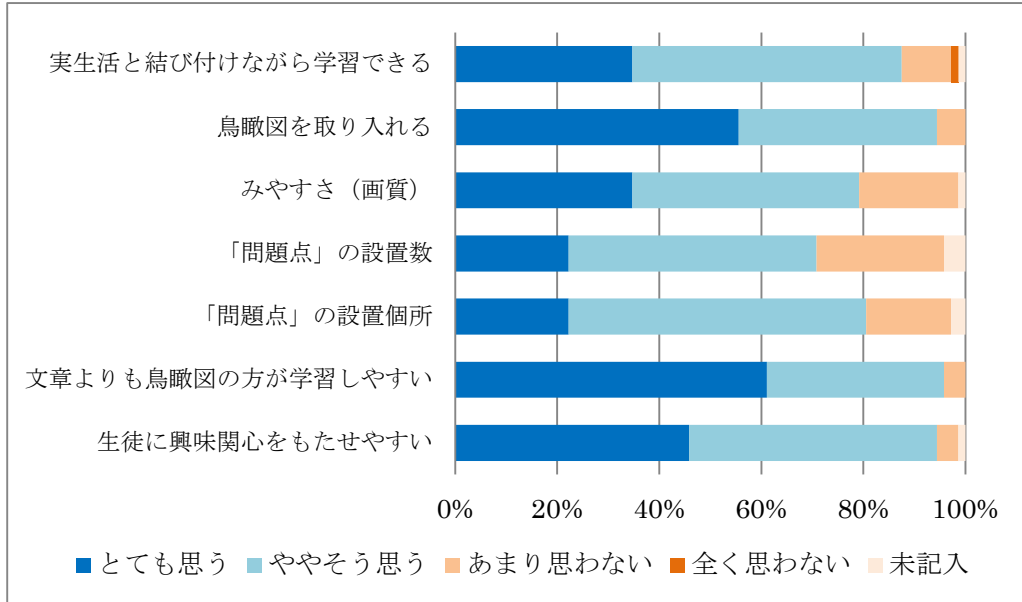


図4 鳥瞰図に関する評価結果(n=72)

(5) ワークシートに期待できることの評価について

「生徒に興味関心をもたせやすい」という項目や「生徒が主体的に学習することができる」という項目が高く評価された。しかし、現状の授業時間数とワークシートの設定時間との合致や教材の準備の手間という点では、マイナス評価が少しみられた(図5)。

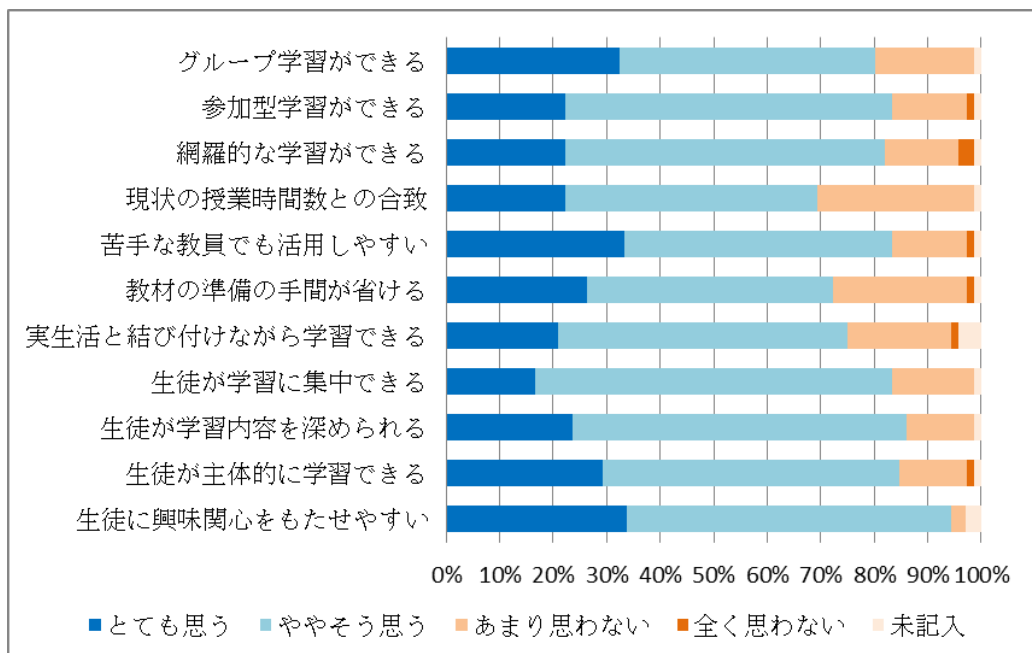


図5 ワークシートに期待できることの評価結果 (n=72)

(6) 使用してみたいワークシート

生徒の実態や学校の特徴等の課題がある中で8割以上の教員が使用したいと回答した(図6)。全てのワークシートの使用を希望する教員は 33.3%、部分的な使用を希望する教員は 52.8%であった。また、自由記述では教員の授業意欲を高めるような記述もあり、学校現場におけるワークシートの有効性をうかがうことができた(図7)。

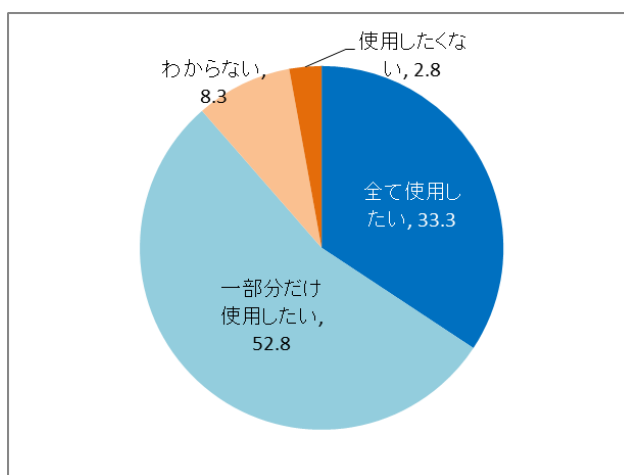


図6 ワークシートの使用の希望について (単位 ; %, n=72)

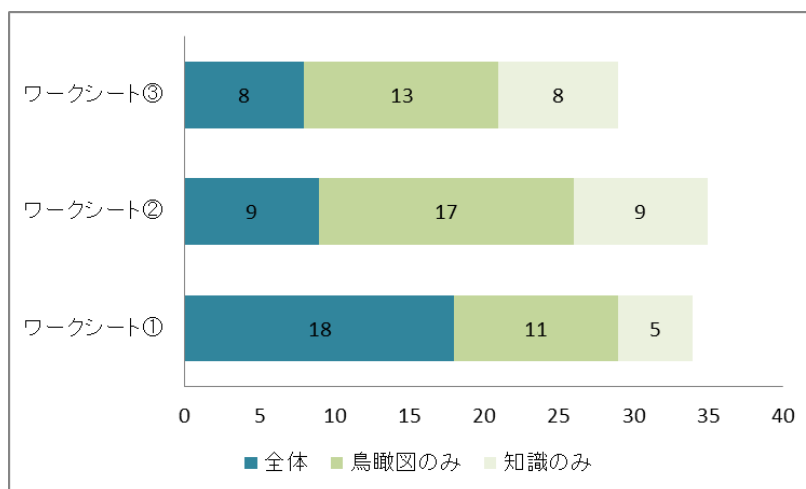


図7 「一部分使用したい」の内訳 (単位 ; 件、n=38、複数回答可)

2、まとめ

学校の特徴や生徒の実態などにより評価が左右したが、ほとんどの評価項目において8割以上のプラス評価を得ることができ、学校現場におけるワークシートの有効性が示唆された。特に「生徒に興味・関心を持たせやすいか」という項目の評価が高かった。さらに、ワークシートを実際に授業で使用したいという教員も多くいた。また、鳥瞰図は住生活分野の学習を行いやすくすることが分かった。多数のアドバイスがあったが、全ての意見を聞き入れることで汎用性が失われることも考えられるため、アンケートの際配布したワークシートを基盤とし、教員が工夫し使用できる方法を提案することとした。